

救護第16班 4月10日～4月17日 薬剤師・上田 賢太郎



出発前日に地震があつて、着いたときにはライフラインは止まっていた。電気は2日目には復旧しましたが、水道は4～5日止まったままでした。

薬については、救護所で用意できない薬を石巻赤十字病院で処方して救護所へ配達する態勢ができていて、「メロンパン・チーム」と言っていました。他のチームには医師と看護師だけというのが結構あつて、当初は熊本のテントに取りに来られたこともあつたそうです。次の班で皮膚科の医師が来るので、パラマイシンなど常備依頼もありました。

鳴瀬庁舎の救護所では、私が行った時受診者は50人くらいでしたが、近所の医療機関が復旧してきたため、救護所受診がだんだん減ってくる時期でした。

雨がそんなに降らなくてほこりが多く、次の班にスタッフ用の目薬や鼻炎の薬を依頼しました。また強風で救護所の小さなテントが夜間に飛ばされ、庁舎の人に元に戻してもらっていたこともありました。

震災から1カ月の時期で、肉親を失って精神的につらいと思える方が話に来られたり、逆に「頑張ってください」と励まされたことも。地震は震度3クラスは頻繁に発生し、数えきれないくらいの地震を経験しました。

初めての派遣で、薬剤師としてしっかり働くことができたと思っています。いつもと大きく変わる仕事ではなく、まだ元気な状態で帰ってきたつもりでしたが、2日くらいは疲労が残っていました。

